

採択拠点の拠点形成概要・採択理由

【分野名：革新的な学術分野】

機 関 名	二松学舎大学
拠点のプログラム名称	日本漢文学研究の世界的拠点の構築
中核となる専攻等名	文学研究科中国学専攻
事業推進担当者	(リーダー) 高山節也 教授 外12名
<p>(拠点形成概要)</p> <p>本研究教育拠点は、日本の学術文化の根幹でもあり、且つ日本研究の基礎でもある漢字漢文文献について、それらの受容の始まった上古から、日本人による漢字漢文の研究及び著述活動等が最も盛行した中世・近世、そして近現代に至るまで、中国学・朝鮮学との関連を視野に入れつつ、研究者及び研究成果等の情報収集と交流、共同研究 関連する文献資料の書誌学的、文献学的調査 収集整理した情報のデータベース化と提供 日本漢文学研究者の育成と、漢字漢文文献の調査整理に当たる専門技能者の養成等を、国際的、学際的な規模において実施しうる拠点を構築する計画である。本学は、漢文学の研究教育に伝統と実績をもち、本計画を推進する主体は、すでにカリキュラム改訂や研究教育組織の改編等を進めてきた文学研究科中国学専攻・国文学専攻及び東アジア学術総合研究所ではあるが、ほかに文学部、国際政治経済学研究科、同学部とも連携する全学挙げての拠点形成計画である。</p>	
<p>(採択理由)</p> <p><コメント></p> <p>記紀時代より戦前まで、漢文またはその読み下し文は日本の叙述作品の過半を占め、日本文学の中心軸であったにもかかわらず、戦後は日本文学の研究対象としては疎んじられ、また、漢文の読解そのものも中国語の普及とともに、衰退しきっている。これは日本文化の理解のためには、極めて危惧すべき事態である。二松学舎大学はこの趨勢の中で、漢文教育を堅持している希少な大学である。日本学としての漢文研究を振興するために、本拠点形成計画は極めて重要である。</p>	
<p><革新的な学術分野であるポイント></p> <p>従来の中国学及び日本学では、日本で伝承されている豊かな漢字漢文文献資料の価値を認識してこなかったが、これを中心軸として本格的に研究しようとする点で、新しい学問分野の確立を目指す革新的な拠点形成計画である。</p>	